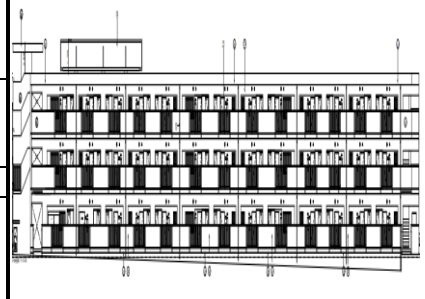


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (建築環境総合性能評価システム) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西田代公営住宅新築工事	階数	地上3F
建設地	名古屋市千種区自由ヶ丘1丁目60、61、62、66-1、67-1	構造	RC造
用途地域	第1種低層住居専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2026年2月27日
敷地面積	3,479 m ²	作成者	
建築面積	1,061 m ²	確認日	2026年2月27日
延床面積	2,453 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 94%

③上記+②以外のオンサイト手法: 91%

④上記+オフサイト手法: 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	3.0
温熱環境	3.3
光・視環境	4.0
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

機能性	2.6
耐用性・信頼性	2.8
対応性・更新性	3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源保護	2.2
非再生材料の使用削減	2.8
汚染物質回避	3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化への配慮	3.3
地域環境への配慮	2.8
周辺環境への配慮	2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO ₂ 排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	2.0% ≤ [昼光率] カーテンと庇にて昼光制御している。 居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	Q2 サービス性能 階高: 2.9m以上、3.0m未満 配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。
LR1 エネルギー	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である。 量水器、かまど、電力量計は各住戸に設置されます。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
	LR2 資源・マテリアル ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率が91%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

西田代公営住宅新築工事

■使用評価マニュアル:




CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.0
	
2. 自然共生	評価点 = 2.3
	
3. 循環型社会	評価点 = 2.6
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。